



・発行：移動サービスW.Co らら・むーぶ緑
 ・〒226-0025 横浜市緑区十日市場町840-3
 福祉クラブ生協 るるる*みどり館内
 ・電話：045-511-8401
 ・URL：https://lalamove-midori.or.jp
 ・発行日：2024年9月
 ・発行責任者：菅原道彦



らら・むーぶ緑HP



らら通信の最新号



問合せ E:mail



カラーで見たい人は
 コチラ

今年の夏は暑かったですね～～ みなさんお元気にお過ごしでしょうか。
 今回のらら通信は、夏至が過ぎ夏本番前のリフレッシュツアー報告、新人紹介、定番「ららさんの日々是好日」などとなります。

■リフレッシュツアー
横浜南部市場：6月30日

私自身はじめてのリフレッシュツアーに参加してきました。ツアー先は根岸湾に面した横浜南部市場。着いてみて、市場の中の余りの人の多さにまずびっくり。

買い物は後回しにして予約していた食事処（和灯）へ入りました。30分ほどしてお目当ての松花堂ランチが来ました。

待っている間、近くの利用者さんとお話をしました。私より若い人もいて病気のおむごさを感じました。みなさん月一回の歌の会を楽しみにしておられました。おひとりの方には人の役に立っているといいことがあると励まされました。

おいしいランチを堪能した後はしばらく人ごみをかき分けながら買い物も楽しみました。帰りの車の中では疲れたせいかコックリコックリされていました。らら・むーぶの存在はありがたいという言葉は嬉しかったです。<阿部>

うしろはすぐ根岸湾



幕末の根岸湾
 （ミシシッピーベイ
 と呼ばれていた）



小柴産の煮穴子もいただきました



■ 新人紹介



長い間、接客業務の仕事をしていましたのでワーク中に以前の職業病的なところが顔を出すかもしれません。私の好きなことは常に挑戦することです。因みに今はボイストレーニング中。

いつかやってみたいと思っていたことは福祉の仕事でした。高齢者（私も含む）の方々にもっともっと元気と楽しい時間を提供したい。。。という思いです。私の幸せ感は一瞬に寄り添った笑顔になって頂いた時。

チラシを見て勇気を出し連絡しました。

（太田晴子）

意志あるお金、募金のチカラ。

赤い羽根共同募金



移動困難な人たちの助けになりたいという私たち「らら・むぶ緑」の活動は共同募金の助成金に支えられています。



福祉クラブ生協は、2024年4月、創立35周年を迎えました。

今後も、組合員・W.Coメンバー・職員一人ひとりが協同の精神を育み、他者を尊重し合いながら、地域社会に役立つ非営利・協同の市民事業、コミュニティオプティマム福祉（＝私たちが地域に住み暮らし続けるための最適の福祉）を拡げていきます。

ららさんの日々是好日

稚鮎！！ 君は世界的なスイマーになるかも



とある曜日の午後のスイミングプール
割れんばかりの大音響の泣き声が、止むことなくプール館内にこだましています。

発生源はすぐにわかりました。今日は幼児のスイムスクールです。25mプール一つを使って、5～6名毎の3グループがスイミング（水遊び）しています。その中で5歳ぐらいの男の子がプールに入るたび、顔をプールにいれるたびに大泣きです。もう20分余り、いやもっと続いているのかもしれない。

泳ぎにきた大人たちは、「嫌がっているのに」、「かわいそうに」、「やめたらいいのに」、「もうお母さんのとろにいかせたら」などと、ひそひそ話しています。

ここで疑問に思うのは、コーチ（男性）というかインストラクターは「なにをしているのか？」となりますよね。私が感心したのは、コーチは「一生懸命語りかけながら、両手をとり指導している。その繰り返しの行動と、「泣かれることに動じない」その姿勢です。

そして感動の時が来ました。あんなに館内を揺るがしていた泣き声が止んで、男の子はみんなと一緒にスイミングを楽しみだしました。心ある大人は「凄いね」と。拍手。

私には、コーチが「北島康介を育てた平井コーチ」に見えました。トップスイマーの鈴木聡美（33歳）、成田実生（16歳）は泣き虫で「ゴーグルを涙でいっぱいにして、精進してきた」と聞きます。「泣く子は育つ」といいます。男の子は、水の恐怖心を克服し、いつかは競技会の舞台上で活躍するほどになるかも知れない。稚鮎よ、がんばれ！！（スガ）

